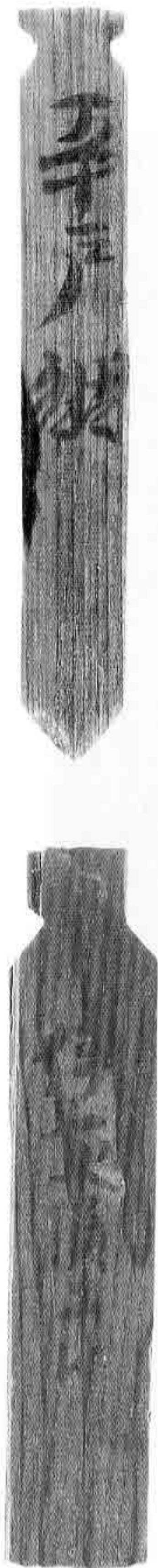
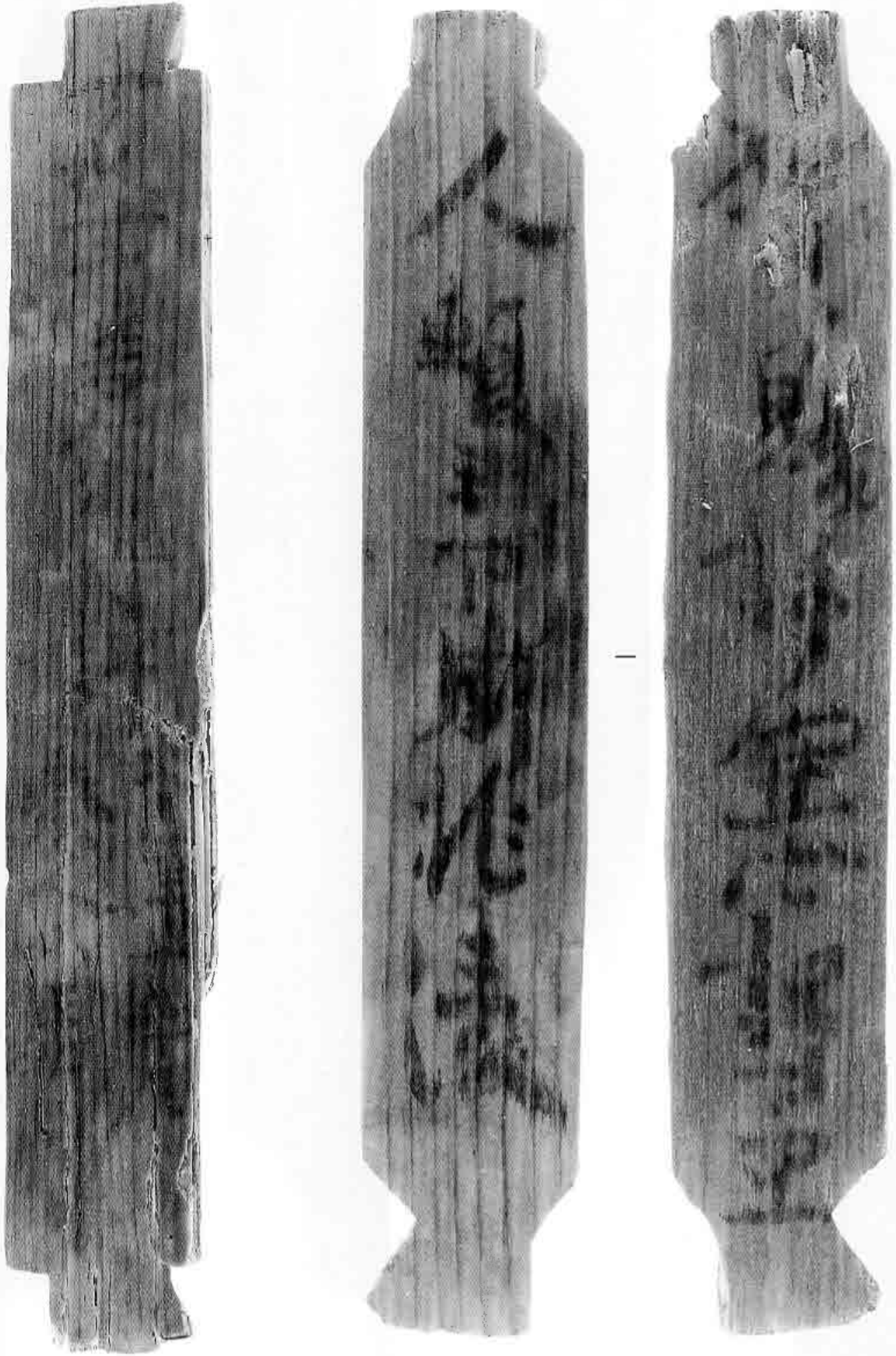


一九九九年九月

飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(其)

奈良国立文化財研究所





(S=1/1)

この概報には、さきに刊行した『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十二)』(一九九八年九月)以後、飛鳥藤原宮跡発掘調査部の行なった発掘調査で出土した木簡のうち、主要なものを収録した。

木簡が出土したのは、飛鳥藤原第八七・九二・九三・九五次の各調査においてである。このうち第八七・九三調査は飛鳥池遺跡の調査であり、昨年報告の第八四次調査と関連が深い。第八四次調査分については、前号に報告したが、整理中であったため、点数などが確定できなかった。したがって、同調査についても関説し、その補遺も今号に掲載することとした。

木簡の出土地点と出土状況について略述し、のち釈文をかかげる。なお、遺構の詳細については当該年度の『奈良国立文化財研究所年報』を参照されたい。

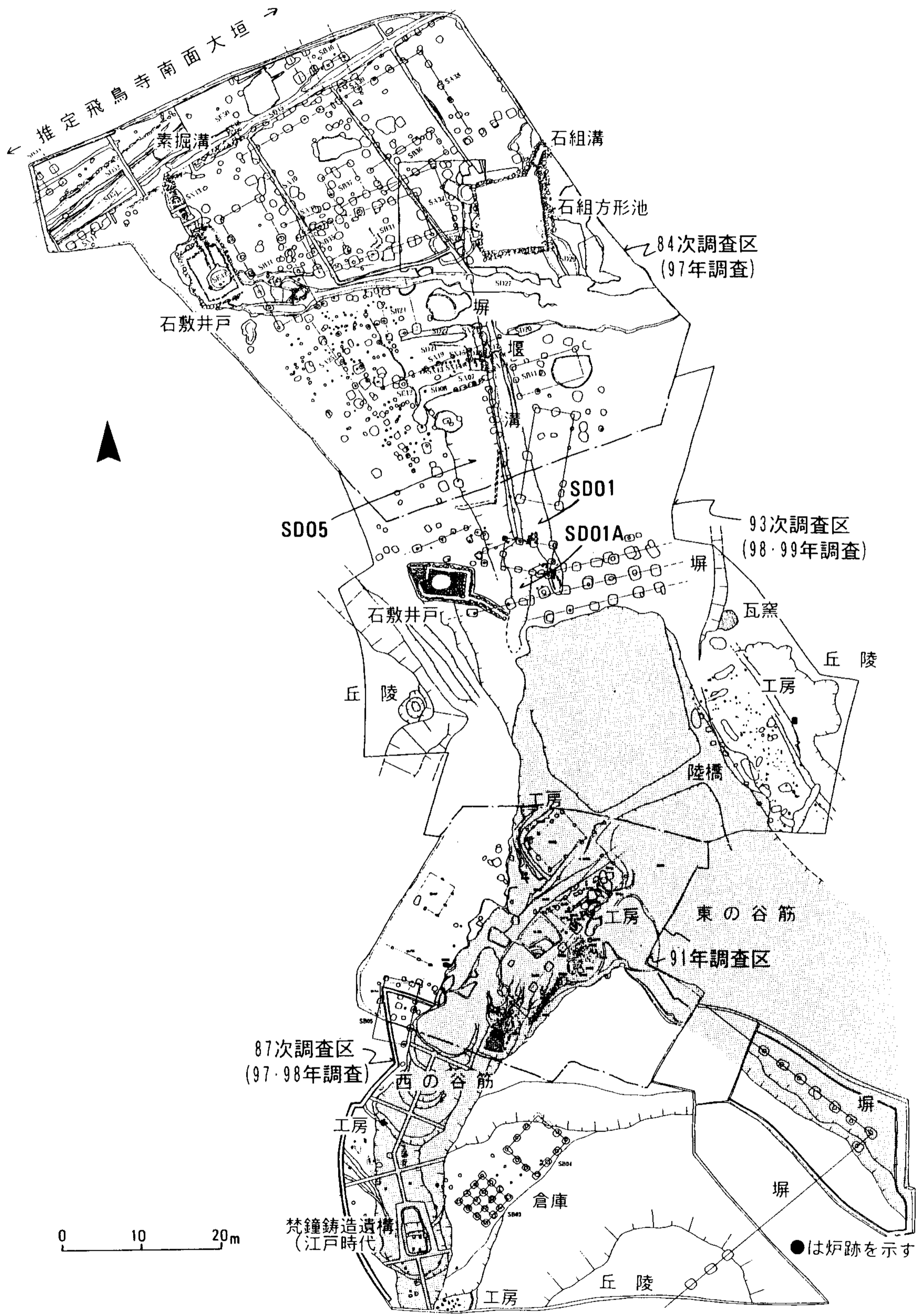
## 一、木簡出土の地点と出土状況

### 飛鳥藤原第八四次調査(飛鳥池遺跡、5BAS区)

一九九七年一月～一月

万葉ミュージアム建設に伴う調査。遺構の概要等は前号を参照されたい。その後の整理によって、木簡の出土点数が明らかになったので、改めて遺構毎の点数を掲げる。

土坑SK一〇	二一九八点(うち削屑二二二〇点)	一点
方形池SG三〇		一点
方形池外側の整地土・土坑群		一点
南北溝SD〇一	一二六一点(削屑一〇七三点)	一点
南北溝SD〇五	三三九三点(削屑二九八一点)	一点
土坑SK二六	七〇六一点(削屑五六二点)	一点
土坑SK二八		六一点
井戸SE四二		一点
東西溝SD二〇		一点
東西溝SD〇八		一点
南北溝SD二九		一点
土坑SK六〇		一点
その他(出土地不明)		六四一点(削屑五四点)



本号には、このうちSK一〇・SD〇一・SD〇五・SK二六の各遺構から出土した木簡と削屑の中から、前号に掲載できなかったものの積文を掲げた。

### 飛鳥藤原第八七次調査（飛鳥池遺跡、5AKA区）

一九九七年十二月、九八年七月  
万葉ミュージアム建設に伴う調査。対象となる範囲のほとんども南にあたり、一九九一年度の発掘区南に位置する。北に向かつて傾斜する丘陵部とその西側の谷部分を調査した。発掘面積一九〇〇m<sup>2</sup>である。工房に関わる炉跡や倉庫と見られる二棟の掘立柱建物などを検出し、多量の遺物が出土した。

木簡は、発掘区の北辺部で、炉跡から廃棄された炭の層から一点が出土したが、釈読不能である。

### 飛鳥藤原第九三次調査（飛鳥池遺跡、5BAS・5

AKA区）  
一九九八年六月、九九年二月

万葉ミュージアム建設に伴う調査。一九九一年度の発掘区の北、昨年度の第八四次の発掘区の南に位置する。発掘面積二二〇〇m<sup>2</sup>である。

この調査区中央付近で、谷を堰き止めるような形で、三時期にわたる東西方向の掘立柱塀が検出された。そして、これを境にして工房の跡及びそこから廃棄された炭の堆積は南に拡がり、北には炉跡などは見られない、という対照的な遺構のあり方を示している。したがって、飛鳥池遺跡はこの塀を境として大きく南北二つの地区に分かれ、工房は南地区、北は寺院に関わる地区であったと推定できるようになった。

第九三次調査で出土した木簡は、合計九七点である。塀より北の地区では、第八四次でも検出した南北溝SD〇一から八点、南北溝SD〇五から六点、SD〇一の南に接続するやや斜行する溝SD〇一Aから二一点、その他の遺構から八点が出土した。

南区では、工房から廃棄された大量の炭を含む層（炭層）から四八点、炭層の下の整地土から五点、その他の土坑か

ら一点である。

一九九九年一月～四月

### 飛鳥藤原第九二次調査（飛鳥池東方遺跡、5AME区）

一九九八年四月～六月

万葉ミュージアム建設に伴う調査。飛鳥池遺跡東側丘陵の東にあたる谷部分に位置する。発掘面積六〇四m<sup>2</sup>である。

この遺跡は昨年度の第八六次調査において、掘立柱建物、掘立柱塀の他、この周辺における基幹排水路ともいべき大規模な旧流路SD〇一〇が確認された。今次調査においても、このSD〇一〇の一部が検出され、多数の遺物とともに木簡一点が出土した。

SD〇一〇は溝の両肩を検出していないが、六～八m以上であると推定され、出土遺物からみて、七世紀中頃から平安時代まで存続した。溝の堆積は大きく四時期に分けられ、木簡はその下層から出土した。

桜井市教育委員会との共同調査で、一九九六年度より継

続している吉備池廃寺の第三次調査にあたる。第一次の金堂跡、第二次の塔跡の確認をもとにして、今次調査は、伽藍の南面回廊と中門、および西面回廊の検出を目的として実施した。発掘面積七二〇m<sup>2</sup>である。

南面回廊と西面回廊の東雨落溝などを検出しえたが、中門は想定位置にはないことが判明した。

木簡は西面回廊の西にある東西方向の溝より一点が出土したが、墨痕が薄く判読できない。同溝は幅二m、深さ〇・二mの素掘り溝で、藤原宮期の土器が含まれ、吉備池廃寺とは時期を異にする。

## 二、凡例

(一) 木簡は出土遺構ごとに掲げ、同一遺構の中では、内容分類によって、文書、付札、その他の順に配列すること

### 飛鳥藤原第九五次調査（吉備池廃寺、5ADL区）

を原則とした。

(二) 積文の漢字は現行常用字体に改めたが、一部の文字については正字体・異体字を使用したものがある。

(三) 積文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位ミリメートル)。欠損しているもの及び二次的加工を受けているものは現存部分の法量を括弧つきで示した。法量下の数字は型式番号・最下段には出土地区を示した。型式番号は次の通り。

011型式 長方形の材(方頭・圭頭などもこれに含める)のもの。

015型式 長方形の材の側面に穴を穿ったもの。

019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は011・032・051型式のいずれかと推定される。

021型式 小型矩形のもの。

022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

023型式 小型矩形で、左右に切り込みをもつもの。

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は031・032・033型式のいずれかと推定される。

041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、他端の左右に切り込みをもつもの。

049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。

051型式 長方形の材の下端を尖らせたもの。

059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は033・051型式のいずれかと推定される。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損・割截・腐蝕その他によって原形の判明しないもの。



○型式 削屑。

(四) 本文に加えた符号は次の通りである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○ 木簡の上端もしくは下端に孔が穿たれていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□ 記載内容からみて、上または下に一字以上の文字を推定したもの。但し削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

■ ■ ■ 抹消により判読が困難なもの。

々々々 抹消した文字の字面が明らかな場合に限り、原字の左傍に付した。

「」 異筆、追筆。

∟ 合点。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

ママ 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

∴ 同一木簡と推定されるが直接つながらず、中間の一字以上が不明なもの。

〔×〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇

所の左傍に・を付し原字を右傍に示した。

「」 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

(五) 釈文の出土地点の下に付した\*は、□絵図版に写真を掲げた木簡を示す。\*1は図版1に対応する。

本書の編集は寺崎保広が担当した。釈読は寺崎・宮川伴子が行ない、竹内亮・吉江崇氏の助力を得た。写真は井上直夫・中村一郎の撮影による。

三、木簡積文

十月十六日□□□

091 NJ30

飛鳥藤原第八四次 (5BAS)

□三升半

091 NJ30

土坑SK-10

宮末呂□

091 NJ30

・ □遺二文□

□□

・ □□□

□□□□  
[工長カ]

(48). (6). 2 081 NJ30

091 NJ30

・ 四百八十八□

加良志

091 NJ30

・ 常□□

(45). (10). 5 081 NJ30

此是故

091 NJ30

・ □□□  
[布施カ]

・ □□□

(103). (5). 3 081 NJ30

應睦生常

091 NJ30

孔孔孔孔孔孔孔

(210). (24). 4 081 NJ30

□千字

091 NJ30

〔得力〕  
□得得得

091 NJ30

御御若若若

091 NJ30

□俳知悪道達達

175.42.9 011 NH33

□〔台力〕

南北溝SDO-

常住

091 NJ33

□□五月生廿六日□

□□

(240).(8).7 081 NK33

□得二石五□〔斗力〕

091 NK33

道川

61.21.3 011 NI33

□二俵用

091 NL33

□悲倒□人道□

身躰

139.15.3 065 NJ33

□〔斗力〕  
□九升

091 NI33

□見佛

091 NJ33

□河澄河河天

陽陽陽陽

(118).(15).3 081 NJ33

義淨<sup>〔義カ〕</sup>□

091 NJ33

□□□□<sup>〔韓人病侍カ〕</sup>

(142). (8). 10 081 NJ36

・有得大大有

・有有□□□□

091 NI33

・<sup>〔宋人臣□□左□□〕</sup>  
□□□□<sup>〔重ね書き〕</sup>

(121). 22. 4 019 NI34

南北溝SD〇五

・□□五斗二斗<sup>マ</sup>

□知達四石一斗

□文二石斗二□

□□<sup>〔稻カ〕</sup>三束塩

(87). (19). 1 081 NL35

・□□□□□□<sup>〔女最并〕</sup>

(261). (12). 6 051 NL36

□□塩<sup>〔斗カ〕</sup>□

159. 23. 4 032 NJ36

・人欲言

・□□

(56). (24). 5 019 NJ36

□六十一<sup>〔老夫丁カ〕</sup>□□□

(161). (13). 4 081 NL35

・□其拾折葛□□

軍布

(45). (13). 2 039 NL36

・□

(194). (21). 3 081 NL35

□□首調

99. 19. 3 032 NJ36

秦人部 □ □ 150.33.5 032 NJ36

柱卅三 091 NJ36

□天之□<sub>「卷力」</sub> (線刻) (145).27.4 019 NJ36

□大<sub>「僧徒力」</sub> 091 NK34

□威那 091 NK34

□何□□恒願□□  
□何□日恒願德均<sub>「送力」</sub>  
□相□□ (123).(23).4 081 NK35

□<sub>「大夫力」</sub> 091 NJ36

七十五 六十七 七十 月十□日<sub>「瓜力」</sub> 091 NL34

五 □□ 已上 (125).(8).4 081 NJ36

馬代稻八束<sub>「塩力」</sub> 091 NK35

□□□<sub>「坐中力」</sub> □□

三□□□九十八十一六十七 (128).(7).4 081 NK36

□海口代□□古八籠<sub>「之非」</sub> 091 NK35

□和道前

091 NL35

□□死鬼□  
□□六雁雁□

〔飛カ〕  
□鳥

091 NK35

・  
半多  
真真真真真  
半子子子子子  
真真真真真

(156). (30). 3 051 NL35

卷卷

091 NJ35

・春部春

□□□□ (天地逆)

091 NL35

小聞

091 NL35

土坑SK二六

四〔月カ〕  
□□銀三□

091 NL35

・天天天 月朋□ □

□僧

091 NL35

・者□ □□影大 大 (左側面)

235.29.19 065 NL35

□二升高二升小高二升針□

091 NL35

多□十三

・□□阿 可為□麻手

□□□□

・義 □□ □□ □□

□身身身□

(146). (23). 3 011 NL35

091 NL35

飛鳥藤原第九三次 (5BAS)

□而工等山

(82). (19). 4 081 NB32

南北溝SDO一

卯時□「召力」

(54). (13). (1) 081 NB32

・丁丑年十

・□□□

(47). (10). 4 081 NE32

阿

阿阿

・阿阿

(68). 24. 3 019 NB32

溝SDO一A

・官大夫

・□□

(91). (14). 2 081 NB32

南北溝SDO五

五十戸調

125. 19. 5 033 NC33 \*1

鮑耳酢一斗 □

179. 17. 3 051 NC32 \*1

飛鳥藤原第九三次 (5AKA)

□□

・己卯年分 □

・□□□□

(91). (13). 3 081 NC32

炭層

散□「支力」  
宮□

□

(179). 12. 4 081 HO28

伊支須二斗 120.25.5 032 HQ29 \*1

丁亥年若佐小丹評  
木津「部カ」五十戸  
秦人小「益二斗カ」  
玉  
多「多カ」己止  
(79).19.4 039 HP31

197.30.3 031 HL29 \*2

賀賜評塞課部里 玉 133.18.4 033 H028

人蝮王部斯非俵 六 (釘の様、上面に墨書) 60.23.24 061 HK28

195.34.5 031 HL30 \*2

加夜「蕪里」 大大有大大大大  
評阿「人」 道道道

道道道

羅「曳カ」連「廿三」

166.32.4 031 HL30

實實實實實實實  
道大大有有道 227.57.7 011 HR29

加「夜評カ」

椋椋屋「経カ」 (72).15.5 081 HQ28

波「佐俵二カ」 138.(26).4 081 HM30



□<sup>「見カ」</sup>  
□<sup>「戸」</sup>  
田五十□

・飛鳥部身□ (133).30.3 039 HL30

炭層下整地土

・官大夫前白  
田々連奴加 加須波□<sup>「々カ」</sup>鳥麻呂  
久田□ 小山乃□乃

・□波田乃麻呂 安目 汗乃占  
野西乃首麻呂 大人 □□ツ麻□□□黑□

(257).28.3 019 HK28 \*1

飛鳥藤原第九二次 (5AME)

流路SDO一〇

煮物 112.20.8 032 FG81